2022 年度実施概要

学校名

北海道標津高等学校

採択活動名

総合的な探究の時間における教科横断的な海洋教育の取り組みと ICT を活用した海洋教育の推進

実施単元　※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1.総合的な探究活動	2	総合的な探究の時間
2.干潟の学習	3	自然環境系科目
3.藻場学習	3	理科
4.野付巡検	1	総合的な探究の時間
5.鯨類学習	3	理科
6.サケ産卵行動実習	3	理科
7.ホタテ学習	3	理科・家庭科
8.サケ解体実習	3	家庭科
9.チカ学習	2	理科・家庭科

取り組みの概要

1　「地域探究活動」は、地域学習から探究活動へ発展させる単元である。日本遺産に登録された「鮭の聖地の物語」をテーマに地域の森林・海洋・街の課題を掘り下げて探究活動を行う。

2　「干潟の学習」では、第 2 学年で潮間帯の生態系やシカ学習、森林学習で学んだ生物多様性について、干潟をフィールドに学びをさらに深める。海洋生態系を支える生物にとって重要である干潟でのフィールド実習を行い、生物の多様性を理解する。

3　「藻場学習」では、標津町海の公園において、藻場の観察および磯採集を実施することで潮間帯の生態系を中心に北海道沿岸に広がるアマモからなるアマモ場と海藻からなる藻場との違いを形成過程や底質からを学び、沿岸海域の豊かな生産性を理解する。

4　「野付巡検」SDGs に関わる事前学習を実施し、持続可能な視点に立った学習とする。地学的側面から野付半島の成り立ちから自然環境、海洋環境との繋がりについて専門員を外部講師に招き講話を実施、巡検では、野付崎先端部の散策を行う。漂着物を題材に SDGs14,11,12 の目標をテーマに海洋プラスチックゴミ汚染について学習し、探究活動を行う。また、トドワラ周辺の散策路では、植物観察から植生について学ぶ。課題解決に向けた探究活動を実施し発表する。

5　「鯨類学習」では、外部専門員による鯨類研究の最前線を学び、鯨類から海洋と陸水の繋がりについて学習を行う。オホーツク海根室海峡で観察される鯨の種類やそれを取り巻く海洋環境、鯨類のニッ

チについて学びを深める。特に特異な生態系を形成する鯨骨生態系について取り上げ、深海への興味関心を高め海洋学習をさらに深める。

6　標津町サーモン科学館の魚道水槽にて、シロザケの産卵行動の観察実習を実施する。産卵行動に関わる生物の戦略についてサケ科魚類から学習し、生態と環境への適応の学習へ繋げる。また、アイヌの時代から続けられてきた自然産卵による資源管理の重要性を学ぶことで持続可能な資源管理について学ぶ。

７～９　地域の主要水産魚介類を活用し、生物学的な知見の深化から食材としての利用、地域の持続可能な資源の利用について学習する。「鮭の聖地の物語」の主役となるサケやホタテと地域産業である酪農を組み合わせた食育を実施する。身近な魚であるチカを使った料理や保存食作りを通して、古くから食べられてきた身近な魚に注目して、地産地消の意識を持たせる。

活動中の写真を2～3枚以上、画像ファイルにてご提出をお願いします。

Wordに貼り付けた場合も 元データの画像ファイル を提出してください。

フォルダにまとめ、ファイル名をどんな活動をしている際の写真なのかわかるよう変更してください。

フォルダ名は「2.実施概要_写真_〇〇学校」としてください。

ご提出いただいた写真はwebサイト等で使用いたします。肖像権、著作権等にご留意ください。

02 干潟　潮干狩り

03 藻場実習

04 野付巡検　海洋ゴミ

04 野付巡検　生態系説明

05 鯨類学習

06 サケ産卵行動

07 ホタテ解剖実習

08 ホタテ料理 (2)

08 ホタテ料理

09 サケ実習

10 サケ実習